



風土@図書館 ～よーろっば日記から～

江上 敏哲

2004/09/16 【最終日】

というわけで、ロンドン最終日です。いやあ、あっというまですなあ。オックスフォードの日本図書館、ロンドン大学東洋学院図書館、大英図書館とまわってきたわけですが、旅程の前半戦も終わらぬうちに、これはかなりキてる旅になりそうな予感ですよ。

そして、根本的に日本とは勝手がちがう！という思いばかりをさせられてるよ。閲覧フロアいっぱいいっぱい、きつきの書架の置き方なんか、なんでこんなありえない置き方してんだろと思うて、ていうか、なんで自分はこの置き方をありえへんて思うてんねやろうと思うて、そこまできてやっとのことで、あー、ロンドンって地震ないんだあ、と思い知ったよ。

本が落ちてこないように、書架は倒れないように、固定と安定を第一に、ていうのは図書館にとっての原則だとばかり思ってたんだけど、いやなんてことはない、それは“図書館の”じゃなくして“(地震国)日本の”原則だったんだな、て、頭での理解じゃなく肌で感じた、という感じですよ。やっば旅はいいね。

で、明日(注:このblogの時計のシステムはやっぱり日本時間みたいです)、ロンドンを発ってダブリンへ向かいます。なにがでるかな。

by 200409eu | 2004-09-16 05:32

2004/09/18 【Go raibh maith agat, Dublin !】

ダブリン市民は、もうありえへんくらいに愛想がよいのです。ダブリン・ラブです。

例:道を訊く。ロンドンやニューヨークだと多少緊張しながら話しかけて、8割くらいが不機嫌そうな顔をされるのですが、ここダブリンでは、こちらが訊く前に、目があつた時点でもうすでに相手がにこやかに笑ってる。もうとろけるような微笑みでもって。

(次頁へ)

[目次]

風土@図書館 ～よーろっば日記から～	...	1
統京大図書館史こぼれ話 第二回	...	4
京都支部 Web サイトのリニューアル(改装)を計画しています	...	6

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール: dtkk@rg7.so-net.ne.jp (大学図書館問題研究会京都支部)

URL: <http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm>

で、仕事が丁寧。チェスター・ビーティー・ライブラリー、まあライブラリーつっても要は古典籍・稀こう書のミュージアムなんだけど、資料1点1点をすごく大切にしてる。なんだろう、介護的な感じ。資料ごとに、ここをこう展示したいからそこにあわせて書見台をオーダーメイドする、敷紙一枚にしてもケミカルリアクションのおそれがあるものは使わない。

ミュージアムなんだからそりゃそのくらいするだろう、ということかもしれないけど、そういえば思い出すことがあって、2年前ですか、ISIの本社を見学させてもらったことあったのですね、フィラデルフィアの。そこはデータ入力用専門のファクトリーをニュージャージーに持ってるんだけど、作業分担と非常時に備えて、アイルランドにもう1箇所同じような入力工場がある。で、なぜアイルランドかという、欧米圏で、英語が使えて、その中でも地価と人件費が比較的安い、だけでなく、そもそもアイルランド人の気質が、データ入力という地味でこつこつした仕事に向いてるんだ、とおっしゃるんですね。その話を聞いたときにもうひとつ思い出したことがあって、ニューヨークのおまわりさんというのは移民グループで言えばアイリッシュ系が大勢を占めている、というのをきいたことがあります。歴史的経緯は種々あるでしょうけど、ひとつには、職務に忠実で地道な仕事をこつこつとこなすので、警官の仕事に向いている、ていう。

図書館(ミュージアムだけ)をきりもりするにしろデータベースを作るにしろ、やっぱりそういうのと無関係ではありえないんだなあ、ということを思いましたよ。

by 200409eu | 2004-09-18 13:29

2004/09/21【ライデン大学へ行ってきた。】

ライデン大学へ行ってきましたよ。日本図書館もさることながら、終わりに寄らせてもらった中央図書館で、ちょっと気になる話を聞いたよ。

本がたくさんで置くところがない、なんて話はまあ、どの国のどの図書館でも聞く話ですが。「じゃあ、地下の書庫を増やしたりとかですか」と問うと、「いや、ここは低地だし海も近い(運河に海鳥がいたでしょ、海が近い証拠)から、ちょっと深く地面を掘ると、すぐに水が出てくる」とおっしゃる。ああ、オランダだなあ、と思いながら、「じゃあ上に建て増すしかないんですね」と問うと、「いや、土地が水分を多く含んでいて土壌が柔らかいから、上へ延ばすこともできない」、て。「オランダは常に水との闘いだ」、て。

それ聞いてねえ、帰りに街の風車(もはや「風車博物館」ではあるが)を眺めながら、あらためて考えさせられましたさ。いま見てるこの風車だって、オランダ低地の水を汲み出さなきゃいけないからってんで、そもそも各地にずらずらっと建てられてるわけでしょ。けど、低地という自然風土が影響及ぼしてんのは、なにもこの風車だけじゃなくて、あの図書館に対しても、なんだね。

いや、あたりまえなんだけど、でもさあ、ふだんネットだメールだでびゅっびゅかびゅっびゅか情報だけやりとりして、ISBNだAACR2だZ39いくつかがどうのこうのって標準化されて、OPACだILLだエルゼビアだって隣近所の図書館とかわんないようなテンションでサービスのやりとりとかしてるよね、この図書館はオランダのライデンという“土地”に“モノ”として存在してるんだ、ということ、ほんとについっかり忘れちゃったりしてるのですよ。特に図書館はネットワーク化・標準化を手篤く整備することでやってきた業界ですからね。

でも、そんなオランダのライデンという“土地”とか、ロンドンという“土地”とかにわざわざ足を運んでおいてだね、電子ジャーナルの予算はとか契約はとかメタデータはとか遡及入力はとか、そんなメールで済むような事務なこときいてる場合じゃないね。現地に来てんだから、その土地が、自然風土があるからこそ成り立っていることとか、阻んでることとか、オランダ→低地→土地が水を含む→下に掘れない&上に積めない→書架スペースが足りない的なこととか、空気空間を実感する旅にせんとね、と。

それはじゃあ、自然だけじゃなくて、その土地の歴史的な成り立ちというか、風俗・民俗、社会(制度政策的な意味ではなく)、ひょっとしたら食べ物とか祭りとかライフサイクルとか、人のあり方みたいなの。ダブリンの、たまたま道を訊いた時のあのとろけるような微笑みと、あの国の図書館のあり方とを、切り離して考えるような無機質な図書館見学はしちやあかん、と。これまで

そんなことを忘れながらあちこちの図書館を“図書館としてだけ”見てきてたんじゃないかってことに、いまさらながら反省を思うたです。

by 200409eu | 2004-09-21 02:14

2005/09/25 【はやっ!!】

え、もう最終日!? おいおい、旅情はこれからだろう。去年のロンドン・ダブリン・ライデン・サラマンカ行きは全2週間でしたが、今年はオランダ・北欧を1週間でまわるといふあれなんで、エンジンかかったところに終わりですよ。

いろんなとこいったはずで、いろいろ思い出そうとしても、正直もうなんか、あのNIASの書架しか思い出せなくなってしまってる。だって強烈過ぎだつてばねえ、図書館の書架といいデスクといいすべてがまっ黄っ黄なんて、ありえないでしょう。原色黄色。CCB かつ。あんな色遣いの図書館見せられて、衝撃を受けてるようじゃまだまだ常識に捉われてる、なんてもし言われるのであれば、もう江上は単なる常識人に墮するんでかまいませんですよ、参りました m()m

そしてそれはNIASだけが特別なんじゃないで、コペンハーゲン街歩きの中でふと覗き込んだ公共図書館、書架・机椅子・床・装飾が、原色赤、原色青、なんやわからへん白黒の市松デザイン、もお勘弁してください。北欧の家具・調度デザインが名高いうのは、そりゃなんとなく聞き知ってたけど、こういうの見せられると、図書館といえば木目かスチール色、みたいな固定観念に自分がいかに毒されてたか、てなるね。

by 200509eu | 2005-09-25 05:49

2005/12/16 【I'm in Venezia】

あれだね、宿が変わると、インターネット環境ががらりと変わってならんね。しばらく更新止まりがちですが、ヴェネツィアーツを充分満喫しておりますよ。

それで、もう電話代とかを気にしながら更新しなきゃいけないフェーズに入っちゃってるのであまり書けないのですが、このヴェネツィアーツに関してはいろいろたくさん思い出や思い出入れがあって、とりあえずまたひとつお勉強してきたよ、ということをお急ぎで書き留めておきますよ。

ヴェネツィアーツ大学東アジア学科は、図書室の入り口ではなく、学科の入り口にいきなりBDSがある件について。

四方を海に囲まれた島である+街に1000年以上の歴史がある→街は1000年の間に建てられた歴史的建造物でひしめきあってる→もはや新しいビルを建てる余地がない(立錫の!)→数百年前の建物を間借りするしかない→当然床強度が弱い→本や書架を置ける床強度の部屋は1階か地下にしかない→高潮(主に冬場に海の水があがってきてひどいときは1mくらいになる、ヴェネツィアーツの自然現象)が来るので1階や地下に物を置けない→本や書架を2階3階に置くしかない→床強度が弱い(ループだ)→少なくともすべての本や書架を一箇所に置くことはできない→かろうじて床が耐えられるとするならば柱や壁にぴったり沿わせて置くことくらいだろう→建物内の壁際という壁際すべてに書架を配置する→図書室所蔵の図書が教室となく会議室となく講師室となく事務室となくありとあらゆるところに配架されている→BDSは学科全体の出入口にいきなり置くしかない。QED(←?(笑))。BDSの位置が、風土に左右されてしまいました、ていう。(和辻先生すみません)

by 200512eu | 2005-12-16 07:53

えがみ としのり (京都大学情報学研究科図書室)

続京大図書館史こぼれ話 第二回

京大草創期、図書館を巡って起った対立事件 その1 (つづき)

廣庭 基介

第二の文書である法科大学五教授の要求書の文言からの摘記は次の通りです。

「曩^{なほ}ニ京都帝国大学ノ創立セラルルヤ世人皆囑望シテ其事業ノ必ズ見ル可キモノアランコトヲ期セリ而ルニ今ヤ往々其囑望ノ誤マレトヲ疑ヒ甚シキハ評シテ羊頭ヲ懸ケテ狗肉ヲ鬻^{ひき}グト云フ者アルヲ聞ク俚俗無識ノ徒ノ是非ハ固^{もと}ヨリ意ニ介セスト雖モ識者ノ笑ヲ招クニ至テハ安ク寒心セザルヲ得ンヤ夫レ百般ノ事業ハ主義着実ニシテ浮華ナル可カラズ方針確^{まこと}ニシテ誇大ナル可カラズ故ニ理ヲ見ルノ明アリ事ニ当ルノ器アル者ニ非ザレバ事業ノ実功ヲ収メテ遺憾ナキニ至ルコト能ハザルナリ生等^{ひそか} 窃^{ひそか}ニ我が京都帝国大学ノ主義方針ト其収用スル所ノ人物トヲ察スルニ寧^なロ此理ト相反スルモノアリ是ヲ以テ其施設外形ニ馳セテ内質ヲ忘レ虚名ヲ好テ実績ニ疎ナルヲ免レス是其或ハ一時世俗ノ喜ヲ買フニ足ルモ遂ニ識者ノ信頼^{そひ}ニ負カザルヲ得ザル^{ゆえん}所以ニ非ズヤ生等故ニ^{おも}以テヘラク今ニ於テ断然情弊ヲ打破シ人物ヲ更迭シ以テ宜シク一意到底施設ノ完備ヲ計ルヘシ (中略)

一：(略)

二：事務ノ任ニ当ル者ニシテ大学ト何等ノ関係ナキ団体集会等ニ干^まシ事務ヲ曠^{おそ}廢スルノ虞^{おそ}アルコト

故ニ職務上支障アルニ^{かかわ}拘^かラズ武徳会美術工芸展覧会等ニ関係スルガ如キハ之ヲ不可トス

三・四・五：(略)

六：図書ノ整理ヲ後ニシ徒ニ虚名ヲ博スルカ為メニ心身ヲ勞シ時間ト経費トヲ空費スルコト。

故ニ図書館展覧会ヲ開キ又無用ノ寄贈ヲ受クルバ如キハ之ヲ廃止シ且適任ノ館長ヲ求メテ大学図書館タルノ実ヲ挙げシム可シ

七～十：(略)

明治三十五年七月十四日

織田 萬
井上 密
仁保亀松
岡松参太郎
高根義人

ここまで引用した二つの文書の抜き書きを読んで、本誌の読者諸兄姉はどのように感じられたでしょうか？まず、初めの「取扱手続」の第17の冒頭から「京都帝国大学附属図書館ハ大学ノ附属図書館ニシテ帝国図書館ニ非ズ」と決めつけています。これは、木下総長が、京大創設の当初に公表した意見、すなわち、京大図書館を我が国西部に向けた第二帝国図書館の役割を兼ねさせよう、という意見を知った上で、その意見に真っ向から反対の意志を叩きつけたこととなります。

明治30年に総長が述べた京大図書館の市民公開の意見だけでなく、その後、明治32年12月に実際に図書館が開設され、島文次郎館長の下で、図書館業務の指導的役割を担った笹岡民次郎司書と秋間球磨司書がずっと以前に東京の帝国図書館で勤務した経験を持っていたことが法科大学の教授連にとっては、一層頭にカチンと響いたのではないかと考えられます。実は、笹岡・秋間の両司書は、確かに昔、帝国図書館の前身である東京図書館に勤めていたことはあるのですが、その東京図書館から直^{ちよく}に京都帝国大学へ赴任してきたのではありません。秋間球磨は、東京図書館に

明治13年7月に就職し、明治29年2月6日に退職した後、同年2月7日から台湾総督府に転勤になったのです。明治31年5月9日に台湾総督府を退職して、翌明治32年5月10日付けで京都帝国大学附属図書館で勤務するようになりました。

笹岡民次郎も、明治22年3月に東京図書館に就職し、明治27年6月に東京美術学校の文庫掛に配置転換され、さらに明治29年7月には仙台の第二高等学校の図書掛への配置転換を命令されました。同年10月29日付けで懲戒免職となり、翌明治30年7月14日、京都帝国大学書記に採用されました。この懲戒免職は、明治29年1月段階で京都に二つ目の帝国大学が創設されることが帝国議会で決定していたのを知った笹岡が、京大への転勤を希望して、二高への配転の命令を履行しなかったからではなかろうか、と私は嘗て『静修』Vol.37, No.2(2000年8月)9~12ページに「京大草創期の司書たち」と題して書いた通りです。

しかし、このように、笹岡と秋間が、東京図書館から直接的に京大へ転勤してきた訳では無いにも拘わらず、不思議なことに、以前から、竹林熊彦氏も、『京都大学付属図書館六十年史』も、さらには笹岡司書から直接図書館業務の指導を受けた元附属図書館洋書目録掛主任、文学部図書室主任を歴任した谷口寛一郎氏(大図研会員であった故谷口洋子さんの父上)も、そろって笹岡司書が「帝国図書館から京大図書館へ来た」それも、選ばれて引き抜かれて来たような感触を込めて書かれているのです。秋間、笹岡という草創期の京大附属図書館の指導的司書が二人まで、帝国図書館から直接的に引き抜かれて来たように誤解されたことは、法科大学五教授による木下総長と島館長に対する批判にも関係してくると考えられるので、不幸な誤記と云わなければなりません。穿った見方を許されるならば、木下総長などが、秋間、笹岡を帝国図書館から引き抜いてきたかのように故意に云った者がいたのではないか、とさえ思えるくらいです。

竹林熊彦や谷口寛一郎など本家本元の図書館職員がそのような調子で誤記するくらいですから、法科大学の教授連は一層、木下総長なり島館長なりが、京大図書館を帝国図書館並みに市民公開図書館に仕立て上げようとしたことの確かな証拠であると感じていたのではなかろうか、と思います。
(次号につづく)

ひろにわ もとすけ(元京大図書館員)

◇ 京都支部報へ投稿しませんか ◇

京都支部では、会員の皆様からの投稿をお待ちしております。

日頃のお仕事にまつわること、大学図書館に関連してお考えのこと、イベントの参加レポートや見学の報告、本の紹介などなど、お気軽にご投稿ください。

原稿の規格、送付先等、詳しくは、以下の京都支部Webサイト支部報投稿案内ページをご覧ください。採用の際にはあらためてご連絡させていただきます。

<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/kaihou/kitei.htm>

情報の発信と共有の場として、支部報をどうぞご活用ください。

ご不明な点は、京都支部(dtkk@rg7.so-net.ne.jp)まで、お問い合わせください。

京都支部 Web サイトのリニューアル（改装）を計画しています

大綱 浩一

京都支部の Web サイトは 2000 年の開設（第 1 期）以来、2003 年のリニューアルを経て現在（第 2 期）に至っています。2003 年のリニューアル以来、コンテンツの増加に伴い増改築を重ねてきた結果、訪問者にとっては見やすさが、管理者にとっても管理のしやすさが低下してきています。そこで今回 2006 年 6 月を目標に見やすさと管理のしやすさを改善すべく、2005 年度[支部]活動方針にあるとおり Web サイトのリニューアル（第 3 期）を計画しています。

今回のリニューアルは次のような 3 つのコンセプト（基本概念）で考えています。1 つ目は「京都支部の活動に関心をお持ちの方に、京都支部の活動に関する情報を提供し、京都支部の活動への参加を促すため、あたたかくお出迎えする」また「京都支部の活動に関心をお持ちの方への説明責任を果たす」を実現したいと考えています。

2 つ目は個人による Web ページ制作の普及に伴い、境祐司著「速習 Web デザイン Web デザイン基礎」や益子貴寛著「伝わる Web 文章デザイン 100 の鉄則」など、Web デザインの基本的な考え方が示されるようになりました。これらで示されている基本的な考え方（表 1）を実践し「使いやすく」て「カッコいい」サイトにしたいと考えています。

表 1：Web デザインの基本的な考え方「使いやすさ」と「かっこよさ」

ユーザビリティ：簡単にいえば「使いやすさ」のこと。主に次の 4 要素によって支えられる。	
アクセシビリティ（閲覧可能性）：ユーザー環境に依存せずその Web ページが問題なくブラウジングできること。	
ナビゲーション（情報誘導性）：ユーザーを欲しい情報に適切に誘導すること。	
アカウントビリティ（説明責任）：ユーザーの不安を取り除くための情報をきちんと明示すること。	
シンプルシティ（簡潔性）：コンセプト、テクニック、デザインのシンプルさ。	
ライカビリティ：簡単にいえば「かっこよさ」のこと。	

#使いやすさだけではダメ、かっこよさだけでもダメ、両者のバランスが取れていることが重要。

3 つ目は「支部活動と Web サイトの関係」を「サークル活動と部室の関係」のようにしたいと考えています。部室には大会の参加記録や歴代記録などの活動記録が貼ってありました。京都支部の Web サイトでも 2005 年度[支部]活動方針にあるとおり、総会、研究交流活動、支部報発行、支部委員会などの「支部活動に関する情報をわかりやすく提供」したいと考えています。また授業はサボっても、部活に出なくても部室には顔を出す、そんな学生生活を送っていましたが、京都支部の Web サイトも単なる活動記録の集積にとどまらず、会員間のコミュニケーションを促進し会員相互の理解と協力を深められるようなサイトにしたいと考えています。具体的な方策についてはリニューアル後にご提案できればと考えています。

2005 年 8 月、日本目録規則に更新資料という概念が登場しました。Web サイトは成長する資料です。2006 年 6 月のリニューアルおよびその後の成長にご期待ください。

おおつな こういち（ホームページ担当@支部委員）